

令和元年度 第2回 豊田市地域経営懇話会 会議録

【日 時】 令和元年12月26日(木) 午後2時～午後3時30分

【場 所】 豊田市役所南庁舎5階 南52会議室

【出席者】(委 員) 小野 修市 (豊田市区長会)
尾原 洋子 (豊田市ファミリー・サービス・クラブ)
斉藤 尚文 (中京大学現代社会学部教授)
坂元 貞仁 (豊田青年会議所)
杉本 はるみ (豊田市ボランティア連絡協議会)
田端 稔 (豊田商工会議所) «副会長»
長岡 美穂 (TIAボランティア日本文化紹介グループ)
西原 香保里 (元・愛知みずほ大学教授) «会長»
花村 善照 (豊田市高齢者クラブ連合会)
本庄 悠輔 (豊田市PTA連絡協議会)
三島 利彦 (旭地域会議)
湊 裕 (連合愛知豊田地域協議会)
村野 政章 (公募委員)
村林 聖子 (愛知学泉大学現代マネジメント学部准教授)

(計14人)

【欠席者】(委 員) 胡桃沢 幸希 (学生によるまちづくりの会)
津村 美紀 (公募委員)
寺田 安孝 (あいち豊田農業協同組合)

【付議説明者】 塚田 良 (総務部行政改革推進課 課長)
先野濱 佳子 (総務部行政改革推進課 担当長)

【事務局】 辻 邦恵 (総務部副部長)
塚田 良 (総務部行政改革推進課 課長)
大平 直樹 (総務部行政改革推進課 担当長)

【次第】 1 開会
2 会長あいさつ
3 議事
第2次地域経営戦略プラン平成30年度の取組実績について
【報告】
4 閉会

(文責は事務局。訂正することがあります。)

【会長あいさつ】

・今年の豊田市は、色々な意味で話題の多い一年だったのではないのでしょうか。くるまのまち豊田がラグビーを始め色々な形で世に知られていくわけですが、一口に豊田と言っても、足助もあり小原もありと、様々な表情を持つ大きなまちであり、地域ごとに抱える課題やその解決の方法論も様々です。地域ごとに抱える課題は地域でそれぞれ解決するのだという考え方も大切ですが、豊田という一つの括りで解決の方法を考え、議論していくというのも、忘れてはならない大切なことだと思います。本日は、積極的なご発言をお願いいたします。

【議事】第2次地域経営戦略プラン平成30年度の実績について（報告）

○会長

・この付議資料は、今回の会議のためにまとめたものなのではないのでしょうか。個々の戦略方針について実績がどうであったかという情報は、どこで見ることができますか。市民がホームページ等で確認することはできるのでしょうか。

○説明者

・付議資料と同じくまとめた形での公表をしておりますが、個々の取組についての公開はしていません。

○委員

・多くの市民に見てもらうためには、文字だけの資料ではなく、もっとわかりやすい資料にした方が良いと思います。

○委員

・平成30年度の行動計画取組実績の表において、取組実績が平成28年度：164、29年度：163、30年度：153となっています。増減していることにはなりますが、これは年度間で取組がどのようにつながっていると理解すればいいのか、見方を教えてください。

○説明者

・個々の行動計画ごとに、平成28年度で完了するものもあれば、複数年度にまたがっているものもあります。また、毎年度新規の取組の追加もしているため、増減が発生します。

○委員

・資料中、令和元年度以降の取組には、所管課の記載がありますが、平成30年度の実績には、それがありません。実績について議論しようとするとき、その相手がわからないということになりますが、実績を踏まえて今後の取組をどうしていくかということについて議論する必要があるのではないのでしょうか。それとも、令和元年度以降の取組は既に決まっているので、議論の余地はないということなのではないのでしょうか。

・私は、戦略方針1-3のまちづくりの担い手の拡大に興味がありまして、子ども会も婦人会も、リーダーをやる人がいないため、次第になくなってきています。では、なぜリーダーがいらないのかということ、推薦して教育をするということをしていないからだと思います。

ています。この場合は、こういう意見をしても良いのでしょうか。

○事務局

- ・個別具体的な案件を取り扱う会議の場で議論することもできますし、この場合は、全体的な視点をもって、市民のみなさんと一緒にまちを作っていくという計画を取り扱っている場ですので、全体的な視点からご意見をいただけましたら、事務局で引き取って解決へつなげていくということもできるかと思えます。

○説明者

- ・この計画は令和2年度で終わりますが、次期計画も作っていくこととなります。また、第8次総合計画も、令和3年度から後期実践計画が始まっていきますので、今委員がおっしゃったような地域の問題、課題は、一つのテーマとして今後取り上げるべきではないかと思えます。

○委員

- ・「地域との連携強化」という戦略方針がありますが、地域にいて、市の姿、市の職員の姿が見えないという実感があります。例えば、交通安全立哨の場に市の職員がいない等といったことがあります。私の地域では市の職員が消防団に入っていますが、そうしたことが市と地域との目に見える連携だと思えます。連携強化のためには、もっと市の姿が目に見えるようにしていくことを考えていただきたいと思えます。

○委員

- ・このプランを策定した目的がわかりにくくなっているため、そもそも個々の戦略方針、行動計画がこれでいいのかというのが判断できず、議論がしにくいと感じます。

○説明者

- ・「豊田市役所品質の確立」というように、良さそうなことが書いてあっても具体的にそれがどういうことなのか等、わかりにくい内容になってしまっていると思えます。次期プラン策定に当たっては、そういったことも課題として考えるべきだと思えます。

○委員

- ・市役所の品質という話がありましたが、組織の横のつながりが悪く、ワンストップのサービスがなかなか実現されないという実態があります。
- ・実績報告の中で、戦略方針1-4「民間活力の積極的活用」というのがあり、アイデアやノウハウを活用することができた、市民サービスが向上したとありますが、放課後児童クラブの指導員をやっている現場の評価としては、民間移管はされても中身が良くなってはいない実感があるようです。
- ・指定管理者の評価については、施設種別にかかわらず専門家の入らない同じ評価委員会が行っていて、適正な評価となっているか疑問が残ります。市民にとって満足のいく施設になっていくような評価をしてほしいと思えます。
- ・市の職員は優れていると思っているので、安易に民間のノウハウが優れていると書かず、プライドを持ってもらいたいと思えます。
- ・SDGsをもっと浸透させるために、家庭で行われているエコに関することを採り上げる等すると良いと思えます。

○委員

- ・戦略方針3-3「WE LOVE とよたの推進」は、地域のことをやれば WE LOVE とよたのことがやれていると評価するのは適切でないと思います。WE LOVE とよたは、市の所属が横の連携をとる基盤になるものとの話があったはずで、その視点での評価がなされていないことはとてももったいないですし、本来の目的からずれてしまっていることになると思います。
- ・平成30年度 of 取組実績を振り返るに当たって、豊田市にどういふ状況変化がもたらされたかという分析まで行えるような行動計画の設定ができると、次に役立つものになると思います。

○委員

- ・取組実績の集計において、実施と一部実施を合わせて100%達成したというまとめになっていますが、一部実施でもって何とか乗り切ったという取組もあると思います。無理に未実施の取組を0にしようとするのではなく、達成できなかった部分についてこういう場で議論すれば良いのではないかと思います。

○説明者

- ・それについては反省している点もありまして、目標設定の段階で、確実に達成できるように目標を下げてしまっている部分もあると思っています。
- ・また、先が読めないところがあって、計画策定から3、4年で既に陳腐化しているものもいくつかありますので、もしかすると、3年や5年のスパンで計画を作ることが適切ではないのかもしれない。とはいえ、計画的な事務執行のためには計画策定が不可欠ですから、適宜項目を追加したりリニューアルしたりすることを前提とした計画が必要なのだと思います。

○委員

- ・行政は年度単位の予算で動いていますが、年度単位の取組と継続していく取組があるとすると、それらを分けて議論しなければならないと思いますが、それがこの取りまとめの中でわかるようにすることは難しいでしょうか。取組には予算が付きものだと思いますが。

○説明者

- ・この計画の中では難しいと思います。総合計画は事業に関する計画ですので、財政見通しと突き合わせて策定しています。

○委員

- ・戦略方針1-2「多様な活動主体との連携強化」の中に、「企業等と連携したワーク・ライフ・バランスや女性の就労継続支援の推進」というものがあります。ものづくり産業振興課の施策として、働くお母さんのための託児を行っているところがあるのですが、お母さんたちの様子を見てみると、「外に出なきゃ」という焦りが伝わってきて、と不安に感じています。一方で、子ども家庭課の取組を見ると、いいお母さんになりましょねと呼び掛けていたりするのですが、これらの課が別々ではなく一緒に動くことができないものではないでしょうか。

○会長

- ・先ほどから横の連携についてのご意見が多いのですが、こうした市民の声をどんな形で

行政に伝えていけば良いのでしょうか。

○説明者

- ・社会の潮流としては、一億総活躍や女性活躍ということで、労働力不足の時代に合わせて女性に働いてもらおうということになっています。一方で子どもの虐待のような問題も多いので、それらをすり合わせていかなければならないとは思いますが、どちらにも力を入れていかざるを得ないのでしょうか。所属間で全く交流がないというわけではないのです。

○事務局

- ・就労支援センターは労働部門、啓発的な活動は男女共同参画センターというように、それぞれ分担をしています。確かに、働きましようという社会の潮流はあるのですが、地域に関わることも一つの社会参加だという考えを皆さんにお伝えしている中で、必要な方には就労支援もするというふうに、連携を取っている部分もあります。
- ・いただいたご指摘の中には、虐待や子育てという視点で横のつながりが弱いという部分もありました。連携しているつもりでもできていない部分の検証が必要というご意見として承ります。

○委員

- ・豊田市は平成の大合併を経て今の姿になりましたが、合併前と合併後、都市部と旧町村部とでは状況が一樣ではありません。また、暮らしや価値観は今と昔では異なり、それに合わせた教育も昔と今では異なりますから、子どもたちと話をしても、大人の考え方が必ずしも正しいとは限りません。ですから計画を作るにしても、いろいろな立場からの意見を聴きながら作る必要があるのだと思います。総合計画は、そういう作り方をしていると思います。

○委員

- ・こうした計画のまとめをするときには、「できた・達成した」ということに終始するのではなく、「ここまではできたけれど、こういう課題が残った。次年度にこの課題を解決するための施策を講じていく。」という、次につながるまとめをすると良いと思います。
- ・この計画は、総合計画をうまく回すためのマネジメントの計画であり、それらが両輪の関係になっているはずでしたが、この計画も事業計画のようになっていて、どのように両輪が作用し合ったのかがわからなくなっています。

○委員

- ・実績が「一部実施」となっている取組がいくつかあります。設定した目標については少しでも達成に近づけなければならないものだと思いますが、どうにも達成できない目標は計画から外してしまうという考え方もあると思います。

○説明者

- ・法改正等の外的要因が伴えば、計画から外すこともあると思います。目標が高過ぎたときに、実績を踏まえて見直すことも考えるべきなのかもしれません。

○委員

- ・行政と関わることも多くある中で、非常に頑張っておられると実感していますが、何か行動を起こして、発表をしたらそれで終わってしまっていることを残念に思っています。

- ・この計画についても、評価の結果、どこに課題があって今後どこにメスを入れていくのかというのを明確に見せることで、行政と事業者、各種関係団体との連携もより強くなるものと思います。

○委員

- ・実績評価の情報が非常に圧縮されてしまっているので、例えば年度ごとに見せる部分を絞って、より具体性を持った見せ方をする等によって、わかりやすくなるのではないかと思います。

○委員

- ・女性活躍を考えるときには、個々の市民ニーズをきちんととらえる必要があると思います。何か問題を抱えていれば、まずはそれをクリアするためのサービスを提供して、それから活躍の場を提供するというふうに、市民の話をよく聴くことが必要です。
- ・豊田市には193コールというものがありますが、専門家が電話で的確に対応してくれるため、お母さんたちにはとても高く評価されています。一方で、産後のお母さんをお手伝いする制度がありますが、これは使いにくいという声を聞きます。作った制度が本当に機能しているかということも、随時振り返って検証することが大切だと思います。

○委員

- ・この計画の中には、BCPのことがあまり書かれていませんが、とても重要であり、よく議論するべきことだと思います。

○委員

- ・市民と行政とが対話をするときには、Win-Winの関係でなければならないと思います。そのためには、市民に任せるべきことは任せることも必要だと思います。こういう計画の評価において、「行政はここまでやった。あとは市民が自らやってほしい。」と訴えることも必要ではないでしょうか。

○会長

- ・今日は、実績の評価の仕方についていろいろとご意見をお聴きでき、行政改革の課題について改めて共通認識とすることもできたと思います。また、この場での議論の仕方について意見をいただくことができたのも、成果の一つだと思います。ありがとうございました。

○事務局

- ・ありがとうございました。それでは、本年度第2回地域経営懇話会は、これにて終了いたします。